

脳卒中とは

健康推進部部長 江夏 基夫



脳卒中は死亡率、発生率ともに減少傾向にあります。これは脳卒中そのものの治療が進んだことに加え、原因となる高血圧症をはじめとする生活習慣病に対する予防と治療が進んだためと考えられます。しかし依然として死因の上位を占めており（長らく悪性新生物、心疾患に次いで第3位を占めていましたが、平成23年からは肺炎に次いで第4位となっています）、また後遺症が身体活動を制限したり認知症をおこしたりするなど、寝たきりの原因となる点でも重大な疾患です。

脳卒中の主な病型には脳梗塞、脳出血、くも膜下出血があります。脳梗塞には高血圧が原因で脳の深部に小さな病変が生じるラクナ梗塞、頸動脈や頭蓋内大血管に発生した動脈硬化性病変が血管を閉塞するアテローム血栓性脳梗塞、心房細動などが原因で心臓内に形成された血栓が脳動脈に飛んで閉塞することで発症する心原性脳塞栓症があります。脳出血は脳の深部の細い血管が破綻し出血を起こすもので、高血圧がおもな原因です。くも膜下出血は脳動脈瘤の破裂によるものが最も多く、危険因子として喫煙、高血圧、過度の飲酒があげられます。

脳卒中の症状は突然に起こる片側上下肢の麻痺、感覚障害、言語障害（ろれつが回らない）、失語（言葉が出ない、言葉を理解できない）、視野障害（半盲など）、複視（もの

が二重に見える）、四肢、体幹などの協調運動が障害される運動失調症、意識障害、激しい頭痛（くも膜下出血）などがあります。また後遺症として運動麻痺、感覚障害、言語障害や失語症、運動失調症、記憶障害などが残り、日常生活に支障をきたし、寝たきりや認知症の原因ともなります。

脳卒中の危険因子として高血圧、脂質異常症、糖代謝異常（糖尿病、境界型糖尿病）、肥満、喫煙、大量の飲酒、不整脈（心房細動）などがあげられます。

最近では急性期の治療法が進歩しています。たとえば脳梗塞では発症後4.5時間以内ならいくつかの条件がありますがtPA静注による血栓溶解療法を行うことで良好な結果が得られています。したがって上記の症状が突然生じた場合、脳卒中の可能性があるので、様子を見ようなどと安易に考えずに救急車を呼ぶなど速やかな対処が重要です。専門的な治療を速やかに受けることで救命、症状の回復につながります。

脳卒中は予防することが大切です。そのために生活習慣を改善すること、必要があれば治療することにより上記の危険因子を是正することが大切です。積極的に健診を受診し自らの健康管理に役立てていただきたいと思えます。